

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成25年11月7日 (2013.11.7)

【公開番号】特開2011-161100(P2011-161100A)

【公開日】平成23年8月25日 (2011.8.25)

【年通号数】公開・登録公報2011-034

【出願番号】特願2010-29275(P2010-29275)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 4 B

A 6 3 F 7/02 3 1 1 A

A 6 3 F 7/02 3 3 4

【手続補正書】

【提出日】平成25年9月20日 (2013.9.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技媒体が入賞可能な複数の入賞口を備える遊技機であって、
前記複数の入賞口にはそれぞれ、
遊技媒体を検出し、第 1 の検出信号を出力する第 1 検出手段と、
遊技媒体を検出し、第 2 の検出信号を出力する第 2 検出手段と、が設けられ、
前記第 1 検出手段から出力された前記第 1 の検出信号と前記第 2 検出手段から出力された前記第 2 の検出信号とにもとづいて前記入賞口への入賞異常を判定する異常判定手段と、

前記異常判定手段により入賞異常と判定されたことにもとづいて所定のエラー状態に移行させる移行手段と、を備え、

前記第 1 検出手段と前記第 2 検出手段とは互いに異なる検出方式のセンサにより構成されるとともに、

前記異常判定手段は、前記第 1 検出手段から出力された前記第 1 の検出信号と前記第 2 検出手段から出力された前記第 2 の検出信号とにもとづいて、前記第 1 検出手段にて検出された遊技媒体数と前記第 2 検出手段にて検出された遊技媒体数との差が所定の閾値を超えたときに前記入賞口への入賞異常が生じたと判定し、

前記所定の閾値を、前記複数の入賞口のうち前記第 1 検出手段から前記第 2 検出手段までの遊技媒体の流下距離が最も長い入賞口における前記第 1 検出手段と前記第 2 検出手段との間に複数の遊技媒体が滞留した状態となったときの前記第 1 検出手段における遊技媒体の検出数と前記第 2 検出手段における遊技媒体の検出数との差分よりも多い値とした、

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

そこで、本発明は、遊技媒体を検出する検出手段に対する不正行為を検知して、不正行為対策を講ずることができる遊技機を提供することを目的とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

前記課題を解決するために、本発明の請求項1に記載の遊技機は、

遊技媒体（遊技球）が入賞可能な複数の入賞口（第1始動入賞口13a、第2始動入賞口13b、大入賞口23b）を備える遊技機（パチンコ遊技機1）であって、

前記複数の入賞口にはそれぞれ、

遊技媒体を検出し、第1の検出信号を出力する第1検出手段（第1始動口スイッチ14a、第2始動口スイッチ15a、カウントスイッチ23）と、

遊技媒体を検出し、第2の検出信号を出力する第2検出手段（第1入賞確認スイッチ14b、第2入賞確認スイッチ15b、第3入賞確認スイッチ23a）と、が設けられ、

前記第1検出手段から出力された前記第1の検出信号と前記第2検出手段から出力された前記第2の検出信号とにもとづいて前記入賞口への入賞異常を判定する異常判定手段（遊技制御用マイクロコンピュータ560において、スイッチ処理におけるステップS113を実行する部分）と、

前記異常判定手段により入賞異常と判定されたことにもとづいて所定のエラー状態に移行させる移行手段（遊技制御用マイクロコンピュータ560において、スイッチ処理におけるステップS135を実行する部分）と、を備え、

前記第1検出手段と前記第2検出手段とは互いに異なる検出方式のセンサにより構成されるとともに（例えば、第1検出手段の遊技媒体の検出方式を電磁式にし、第2検出手段の遊技媒体の検出方式を光学式にする）、

前記異常判定手段は、前記第1検出手段から出力された前記第1の検出信号と前記第2検出手段から出力された前記第2の検出信号とにもとづいて、前記第1検出手段にて検出された遊技媒体数と前記第2検出手段にて検出された遊技媒体数との差が所定の閾値（例えば15）を超えたときに前記入賞口への入賞異常が生じたと判定し（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、ステップS134でYと判定し、第1始動入賞口13a、第2始動入賞口13b、大入賞口23bのいずれかへの異常入賞が発生したと判定する）、

前記所定の閾値を、前記複数の入賞口のうち前記第1検出手段から前記第2検出手段までの遊技媒体の流下距離が最も長い入賞口（第1入賞通路1360a、1360b）における前記第1検出手段と前記第2検出手段との間に複数の遊技媒体が滞留した状態となったときの前記第1検出手段における遊技媒体の検出数と前記第2検出手段における遊技媒体の検出数との差分（例えば9個）よりも多い値（例えば15）とした、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、遊技媒体を検出する検出手段に対する不正行為を検知して、不正行為対策を講ずることができるばかりか、複数の入賞口内における遊技媒体詰まりによる誤判定を防止できる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

手段1の遊技機は、請求項1に記載の遊技機であって、

前記第2検出手段（第1入賞確認スイッチ14b、第2入賞確認スイッチ15b、第3

入賞確認スイッチ 2 3 a) の下方位置に配置され、該第 2 検出手段を通過した遊技媒体（遊技球）を回収する回収路面（底面 1 5 0 1）と、

前記第 2 検出手段と前記回収路面との間に、該第 2 検出手段を通過した遊技媒体に当接して該遊技媒体の流下方向を変更可能に設けられる方向変更部（放出方向変更面 1 4 5 3 a, 1 4 5 5 a）と、を備える、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、第 2 検出手段を通過した遊技媒体の流下方向が方向変更部により変更されることで、回収路面に落下して跳ね上がった遊技媒体が再度第 2 検出手段にて検出されることが防止される。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

手段 2 の遊技機は、請求項 1 または 手段 1 に記載の遊技機であって、

前記複数の入賞口（第 1 始動入賞口 1 3 a、第 2 始動入賞口 1 3 b、大入賞口 2 3 b）とは別個に設けられた普通入賞口（入賞口 2 9 a～2 9 d）と、

前記普通入賞口に入賞した遊技媒体を検出する普通入賞検出手段（入賞口スイッチ 3 0 a, 3 0 b）と、

前記普通入賞検出手段により遊技媒体が検出されたことにもとづいて、景品として景品遊技媒体を払い出す制御を行う払出制御実行手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 におけるステップ S 3 2 を実行する部分）と、を備える、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、不正の対象になりにくい普通入賞口にはエラーを判定するための検出手段を設けないので、遊技機の製造コストを低減できる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 2】

手段 3 の遊技機は、請求項 1、手段 1、手段 2 のいずれかに記載の遊技機であって、

前記複数の入賞口のうち大入賞口（2 3 b）を構成する大入賞装置（特別可変入賞球装置 2 0）を備え、

前記大入賞装置は、

所定条件が成立したこと（大当り遊技状態に制御されたこと）にもとづいて、前記大入賞口に入賞した遊技媒体が入賞可能な開放状態と入賞不可能な閉鎖状態とに可動する可動部材（開閉板 1 4 0 6）と、

前記可動部材を駆動させる電磁式駆動手段（ソレノイド 2 1）と、を備え、

前記大入賞口に入賞した遊技媒体（遊技球）を検出する前記第 1 検出手段（カウントスイッチ 2 3）の検出方式は電磁式（近接スイッチ）であり、

前記可動部材の両側に、前記第 1 検出手段と前記電磁式駆動手段とを離間して配置した（図 3 0（b）参照）、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、電磁式駆動手段の電磁波による電磁式の検出手段の誤検出を防止することができるとともに、電磁式の検出手段及び電磁式駆動手段双方を効率よく配置することができる。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 3 】

手段 4 の遊技機は、請求項 1、手段 1～手段 3 のいずれかに記載の遊技機であって、前記複数の入賞口のうち大入賞口（2 3 b）を構成する大入賞装置（特別可変入賞球装置 2 0）を備え、

前記大入賞装置は、

所定条件が成立したこと（大当り遊技状態に制御されたこと）にもとづいて、前記大入賞口に遊技媒体が入賞可能な開放状態と入賞不可能な閉鎖状態とに可動する可動部材（開閉板 1 4 0 6）と、

前記可動部材を駆動させる駆動手段（ソレノイド 2 1）と、

所定の回動軸（1 4 2 7）を中心として上下動可能に設けられ、前記駆動手段の駆動に応じて上下動することにより前記可動部材を前記開放状態と前記閉鎖状態とに可動させるリンク部材（伝達部材 1 4 2 2）と、

前記リンク部材を上下動可能に支持するとともに、遊技盤に形成された取付用開口に嵌合可能に形成された支持部材（大入賞通路壁部 1 4 0 2）と、を備え、

前記リンク部材は、前記遊技盤の厚み幅方向の寸法が該遊技盤の厚み幅寸法よりも短く形成され（図 3 3（c）参照）、

前記支持部材には、前記閉鎖位置または前記開放位置において前記リンク部材の少なくとも一部を収容可能な開口部（1 4 2 8）が形成されている（図 3 3（c）参照）、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、大入賞装置が大型化することを回避できるとともに、開口部は支持部材を取付用開口に嵌合することで閉鎖されるため、開口部から不正部材等を進入して可動部材を不正に開放状態とするといった不正行為を防止できる。